

公益社団法人 石川県作業療法士会 ニュース

第130号 2024年3月13日 発行

令和6年能登半島地震に際し —助け合おう、支え合おう、力をお貸しください—

公益社団法人 石川県作業療法士会

会長 東川 哲朗

(恵寿金沢病院)

多くの皆様が、ご家族と一緒に新年を迎えておくつろぎされていたであろう、令和6年1月1日元旦の夕刻に能登半島を震源とする「令和6年能登半島地震」が発生した。

新年を迎えた喜び、お祝いムードは一瞬にして大変な日に様変わりし、奥能登をはじめとする県内各所に甚大な被害がもたらされた。

命を落とされた方々に衷心より哀悼の意を表すとともに、被災地の皆様、関係者の皆様に、あらためて心よりお見舞いを申し上げます。

また、発災から今日まで種々の士会災害対策活動にご協力頂いている会員の皆様に厚くお礼申し上げます。

発災以来、日本作業療法士協会様をはじめ、他都道府県作業療法士会様より励ましや義援金などの応援を頂いている。深く感謝申し上げます。人の応援がこんなにも力になるものだと、改めて感じている。長期に渡る活動になると考えており引き続き支援援助をお願いしたい。

さて、県士会では災害対策委員会を中心に、発災直後から安否確認を開始した。併せて石川JRAT (JRAT: 日本災害リハビリテーション支援協会) の構成団体としての活動準備に入り、1月3日には金沢医科大学病院に設置された石川JRAT本部に参集し活動準備に加わった。

JRATの主な活動は、避難所のアセスメント、廃用予防、認知症の重度化予防などがありこれらに働きかけている。新聞報道などでご承知と思われるが、今回石川県は1次避難所2次避難所の間に1.5次避難所を設けた。この1.5避難所は発災直後にまずは、生命を守るために避難する1次避難所と、要配慮者への対応や仮設住宅などへの入居待機を行う二次避難所の間に位置させ、適切な2次避難所への誘導を試みたものである。本来なら適切な避難所に誘導されることからその後のミスマッチによる問題が解消されるアイデアであったが、現時点では上手く送り出す事が機能しておらず、1.5次避難所に多くの方が滞留する事となっている。そのため、この1.5次避難所のア

セスメントや機能低下予防は重大なJRATの大きな役割になっている。

1.5次避難所が各所に多く設けられたことや収容人員が多いこと、長期化していることから、対応する人員が多く求められている。

今回の災害は、半島での発災というこれまでと異なる環境要因の影響で、様々な課題が持ち上がっている。例えば、人的援助が入る際や救援物資を届ける際にも、これまでは被災地の両側からアプローチ、あるいは四方からアプローチできていた。しかし、今回は一方向からのみのアプローチとなる。そのアプローチできえ、潤沢と言えない道路インフラ(のと里山海道・国道249号線)から、進まずにいる。この原稿を書いている2月10日現在で、七尾や志賀町は幾分落ち着きを取り戻しつつあるが、最先端の珠洲市や輪島市は交通インフラがようやく伴いつつあるという段階で、これから問題・課題が明らかになってきて対応が求められる状況である。

もとより、長期戦は覚悟の上であったが、想像を超える状況と再認識している。

会員の中には、家族・知人の安否をはじめ、自身を含めた家族の健康状態や学業に関する事、進学や受験などを控えたご家庭、介護する必要のある家人を抱える会員など、様々なご事情をお持ちと推察する。また、所属する病院や施設などの対応もあり、「何をおいても協力してください」という話にはならないと思っている。

しかしながら、現状は厳しい。本当に一部の限られた会員に過度の協力を頂いている状態である。最優先はご自身・ご家族の健康、勤務先の事、でありこれらは間違いないと考えている。その次に、職能団体の取り組んでいる活動(石川JRAT)にお力をお貸し頂けないだろうか。1回だけでも半日だけでも、数時間だけでも結構である。その時間でできる協力が必ずある。特別な知識・技能も必要ない。あなたの力を是非お貸し願いたい。

能登半島地震における活動状況について

災害対策委員会 担当理事 高多 真裕美
(金沢脳神経外科病院)

発災後からの当士会とJRATの活動の概要について以下のとおり報告する。

日	JRAT	石川県作業療法士会
1月1日 16:10 地震発生	16:16 石川JRAT幹事間で情報共有を開始	16:55 安否確認開始 ※1「災害・OT石川」
		22:45 「災害対策本部LINE」開設
		23:26 63施設、313名の無事確認(自宅含む)
1月2日		68施設、62名の無事確認(自宅含む)
1月3日	石川JRAT本部設置	被災状況確認開始 ※1「災害・OT石川」
		被災状況回答数191名
		会員へ第1報 報告 ※1「災害・OT石川」
1月4日		被災状況回答数218名
		「R6能登半島地震専用」グループLINE開設
1月5日	JRAT本部より支援チーム派遣開始	
1月6日		会員へ第2報 ※1「災害・OT石川」
1月8日	県と災害支援の協定を締結	
1月9日		会員へ第3報 ※1「災害・OT石川」
1月12日	地域JRATの支援開始	
1月16日		会員へ第4報 ※1「災害・OT石川」
1月21日		日本作業療法士協会と打合せ
1月22日		会員へ第5報 ※1「災害・OT石川」
2月7日		・第1回OT災害支援者連絡会 災害支援活動の説明会を2回実施 ・日本作業療法士協会と打合せ
2月15日		第2回OT災害支援者連絡会(31名) 災害支援活動について意見交換

※1「災害・OT石川」：災害時の連絡用LINEオープンチャット(令和3年度開設)

災害支援者連絡会について

災害対策委員会 担当理事 東 ひとみ
(石川県リハビリテーションセンター)

2月15日、各病院・施設の状況や石川JRATでの具体的な活動内容について情報共有し、会員自身の想いを語る場として、支援者連絡会を開催し、31名が参加した。

加賀地区の施設では、能登地区から定員を超えて受け入れていること、被災地の病院では、患者さんの多くが転院し、発災直後、リハビリテーション業務は行えず、1カ月間は施設の片づけ業務をしていたことなどが報告された。被災地も地域差があり、能登中部圏域では断水が解消されていないこと、感染症への対応の課題、施設に大きな被害はなく貯水槽の水を使うことはできたが職員が避難所から勤務していること、能登北部圏域から患者を受け入れ満床状態であること、実家が被災された方から生活状況等もお話しいただいた。ご報告いただいた会員の皆様には感謝する。

石川JRAT活動においては、活動本部(石川県リハ

ビリテーションセンター内)、1.5次避難所(いしかわ総合スポーツセンター)の活動を中心に、実際支援活動に関わる担当理事から支援状況を報告した。特に1.5次避難所では、避難者の方々の2次障害の予防、活動性の維持を目的にアクティビティーセンターとして、運動と作業活動を実施しており、作業活動は作業療法士が担っていると報告があった。最後にこれらの支援活動の人員調整をどのように行っているか、士会としての役割も説明した。

今回、日本作業療法士協会災害対策室の3名にもご参加いただき、会の最後に協会と士会とで連携していくことや、今後の活動への助言をいただいた。

今後も連絡会を継続的に開催し、会員同士が情報共有し、想いを語り、自分たちが何をすべきか、何ができるか、そして士会としての活動につなげていけるような繋がり場としていきたい。多くの参加をお願いしたい。

災害支援活動への協力について

現在、約80名の会員が災害支援活動に協力している。実際に支援活動の現場ではないが、所属機関において日々の業務をサポートしている会員にも感謝している。

しかし、継続的な支援を行うためには、県内の支援者が不足している。現在スポーツセンターの1.5次避難所を中心に活動しているが、今後は、能登地域や2次避難所、仮設住宅等への支援が必要となる。多くの機関から参加することで協力者の負担が軽減するため、災害支援活動への協力を検討いただきたい。

支援活動へ参加や活動において不明な点等、災害対策委員会(ishikawa.ot.saigai@gmail.com)まで連絡いただきたい。

今年度の振り返りと次年度に向けて

石川県作業療法士会 副会長 合歓垣 紗耶香
(芳珠記念病院)

令和6年能登半島地震で被災された会員・関係者の皆様に心よりお見舞いを申し上げます。発災直後より安否・被災状況の確認、石川JRATの活動が開始され、被災された会員の支援を日本作業療法士協会と連携し迅速に実現すべく検討している。昨年は感染対策の規制が緩和され、研修会や事例検討会、石川県作業療法学会は参集で開催し、会員同士顔を合わせて議論し学ぶ楽しさを再確認できた。一方で、遠方や会場参加が難しい会員も参加しやすいようオンライ

ンでの開催も継続している。リハビリテーションスポーツフェスもオンラインで開催し多数のご参加をいただいた。認知症関連事業への協力、いしかわ介護フェスタ等のイベントにも参加し作業療法の啓発を行った。令和6年度は東海北陸作業療法学会が石川で開催される予定で鋭意準備を進めている。多くの会員とともに、長期化することが予測される災害支援を継続しながら、東海北陸作業療法学会をはじめ、会員の学びの機会を止めずに活動していきたい。

第23回東海北陸作業療法学会を皆の力で!!

第23回東海北陸作業療法学会兼・第32回石川県作業療法学会 学会長 東川 哲朗
(恵寿金沢病院)

この度の能登半島地震で被災されました皆様に、心からお見舞い申し上げます。また、被災後の士会活動(石川JRAT)際しては多くの会員の協力を頂き、深く御礼申し上げます。この活動はまだ続くと思われるが、その後には士会独自の支援を長いタームで行っていく必要がある。

未だライフラインの復旧が不十分で生活もままならない会員や勤務先が元の機能を取り戻していない会員も多くいらっしゃると思う。そんな中で心苦しく感じているが、「第23回東海北陸作業療法学会」は熟慮の上、開催することとし、準備を進めている。本学会は、東海北陸地区の作業療法士の学術研鑽の場であり、その

機会を無くす事は出来ないと考えた。復興などとはまだ、口にするのは早い言葉だが、その時点で精一杯できる内容で開催したいと考えている。

学会は地域共生社会の実現に貢献できる人材の育成、将来の人材育成、生涯教育を含む教育に関する事を核とした内容を企画している。まさに今の被災地支援に必要な観点ばかりと感じている。

お願いばかりで恐縮であるが、令和6年の石川県作業療法士会は復興と東海北陸作業療法学会開催にオール石川で挑みたい。会員の皆様の熱い、ご協力をお願いする。

リハビリテーション・スポーツフェス2023の開催を終えて

企画部 担当理事 種本 美雪
 (専門学校 金沢リハビリテーションアカデミー)

今年度も企画部主催にてリハビリテーション・スポーツフェス2023を開催した。本大会は障害をもたれた多くの方に「施設でも自宅でもどこでも、家族と仲間とスポーツを楽しむ」をテーマに「活動できる機会」を提供できるよう企画している。今年度は個人競技のルールを見直し難易度をあげ、また初の団体種目(1競技、2部門)を考案し実施した。加えて全国の県士会へ広報し、多くの各士会HPに掲載頂いた。結果、参加者は個人競技430名、団体競技84名(シルバー部門18チーム、ゴールド部門3チーム)、延べ701名と

いう大変多くの方に参加頂き、また県外(兵庫県)からも11名の方に参加頂いた。参加頂いた方、ご協力頂いたスタッフの方々には改めてお礼を申し上げる。この企画の終了後に能登半島地震が発生し、多くの方の生活が一変した。今回も能登地方の多くの方にご参加頂き、また個人競技、団体競技の優勝者・優勝チームにも多く能登の参加者の方々が該当している。作業療法士が目指す「私らしく暮らす」ことが難しい状況にあるなかで、1年後も是非、本大会の参加頂き、笑顔で楽しい時間を感じて頂きたい。



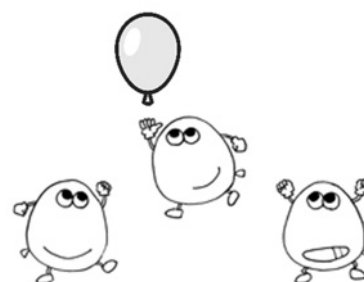
【競技別延べ参加者数】

<個人競技>

	成人部門	シルバー部門	ゴールド部門
フライングディスク	0名	29名	86名
風船リフティング	0名	34名	45名
スタッキングタワー	9名	61名	73名
ピンポンカップイン	8名	108名	164名

<団体競技>

	成人部門	シルバー部門	ゴールド部門
風船パスリレー	0チーム	18チーム	3チーム



石川県作業療法士会キャリアラダーに関するアンケート結果報告

管理運営教育部 委員長 五十嵐 満哉
(恵寿総合病院)

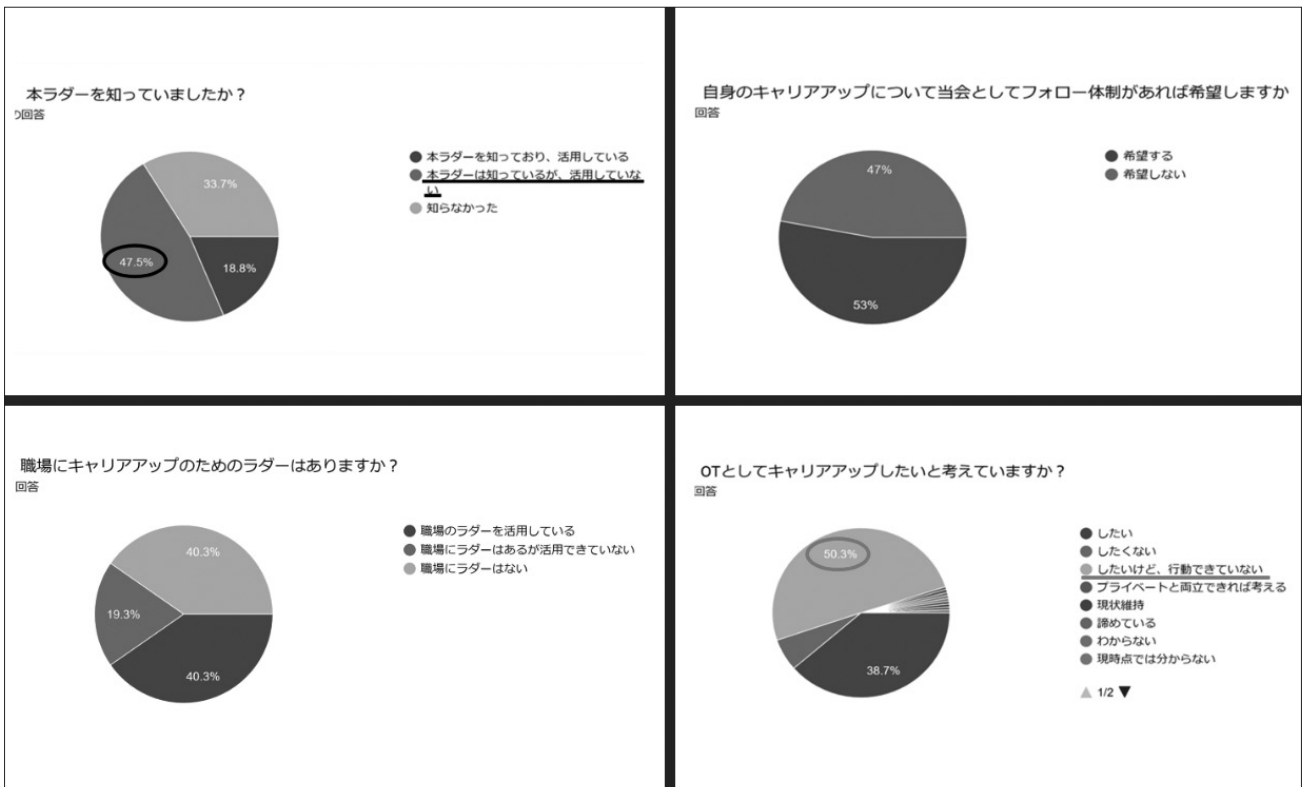
当士会では昨年度、石川県内の作業療法士のキャリアアップの為にロードマップとして「石川県作業療法士会キャリアラダー」を作成した。今回、本ラダーに関するアンケート調査を実施したので報告する。アンケートは181名から回答を頂いた。アンケートにご協力頂いた会員の皆様に厚く御礼申し上げる。

職場の支援状況については、職場にラダーがある会員施設は約半数ずつ存在しており、作業療法士のキャリアアップのための支援としては、研修会や学会等の参加費の補助が約7割以上の施設で認められていた。

本ラダーの認知度や活用状況については、回答者の約7割の会員には認知されていたが、活用している会員施設は2割程度とまだまだ少ない現状であることが分かった。活用方法として自身のキャリアアップのための指標だけでなく、後輩指導や職場教育にも活用しているところもあった。より分かりやすく具

体的な活用方法や実践例なども含めたキャリアアップに関する情報提供や研修会についても要望があったため今後検討していきたい。

また、今回のアンケートの一番の目的であった会員のキャリアアップに対する関心度については、約9割の会員が「キャリアアップしたい」と考えており、その中でも「したいけど行動出来ない」会員が5割いることが分かった。フォロー体制の希望についても約半数の会員から希望があることが分かった。今回の調査でキャリアアップしたい会員は多くいる中で、プライベートとの両立や時間等の制限から具体的な行動が出来ていないことが分かった。当部会では、次年度キャリアアップを希望する方へのフォローや、相談会、キャリアに応じたインセンティブの検討も考えているため、是非多くの会員の皆様に一歩前進して頂きたい。



地域保健福祉部－保健研修会開催 「地域(在宅)を支える作業療法」

地域保健福祉部 保健 部長 北谷 渉
(恵寿総合病院)

今回、徳島県より新名大介先生をお招きし、「地域(在宅)を支える作業療法～急性期から活動と参加を促進する関り」と題してご講演頂いた。急性期OTとして早期から積極的に活動と参加に介入する実践例と裏付けられたエビデンスや医学的知識まで、何もかもが刺激的で、OTとしての実践不足を痛感した。石川県内における実践報告もあり、事例を通じて入院中から在宅生活を見据えた地域への連携や、住み慣れた地域での自立支援・社会参加を促すためにOTがどのように関わっていくのかということが重要であると再確認できた。

現地とオンラインでのハイブリッド形式での開催であったが、双方ともに新名先生のOTへの愛情、活動と参加にはOTが必要なんだという熱い気持ちに感

化され、グループワークも大いに盛り上がった。領域や時期を問わず、参加者全員がすぐにでも明日からの実践につなげたいと意欲を引き立てられる研修であった。



地域保健福祉部－福祉 勉強会を開催して

地域保健福祉部 福祉 担当理事 鈴木 弘美
(石川療育センター)

令和6年2月20日、「就労継続支援事業所ってどんなところ?」というタイトルで開催した。就労支援継続支援B型事業所リハスワークとなみに勤務している四登久嗣氏より、事業所の紹介、業務内容、就労支援事業に関わる制度について、事例紹介や就労あるある話など、とても分かりやすく興味深い話をいただいた。平日の夜にも関わらず、約30名と多くの方に参加いただき、理学療法士・言語聴覚士の方の参加もあり、アンケート結果からも好評を得ている。

昨年度、当部では障害のある方に対し、ライフステージごとにどのように作業療法士が関わっているか取り上げてきたが、対象者の障害種別、時期によっての関わり方など様々あり、会員の皆様には興味を持ちにくい感じであったかもしれない。しかし、今回は、就労・地域というKeywordでより、興味を持ってご参加いただけたようでうれしい限りである。

今後も障害のある方の生活を支えるための作業療法について発信していきたいと考えている。

能登支部

恵寿総合病院 小川 正人

このような状況にめげず2月3日(土)に事例検討会を開催、1事例、17名の参加があった。「iPhoneを用いて多職種連携を図りながら排泄の環境を調整し動作獲得をはかった事例」について検討がなされ、ICT技術を用いて容易に病棟や多職種と情報の共有ができる施設、そうでない施設からも苦悩や工夫など、活発な意見交換が行われ有意義な会となった。

3月16日(土)に、日頃から関わりの多い訪問看護師、在宅支援について研修会を予定している。能登OTチャットでも確認できるので多くの参加をお待ちしている。



能登OT 研修情報共有

金沢西支部

石川県リハビリテーションセンター 長原 美穂

今年度は、事例検討会を3回、MTDLP事例検討会を2回実施した。事例検討会は、私が支部長になった数年前と比べると、報告者が徐々に増加しており、うれしい限りである。また、事例報告のあとのミニ相談コーナーでは、毎回テーマに沿って各施設での取り組みを各班少人数で共有している。こちらも時間が足りないくらい盛り上がっている。勿論、聞いているだけでもOKである。今後も作業療法士の皆さんの力量アップにつながる会となるよう工夫していきたい。

金沢東支部

公立河北中央病院 市川 翔悟

1月24日(水)第2回MTDLP事例検討会が開催された。2事例の報告があり、どちらも活発な意見交換が行うことができた。また、今回初の試みとして、MTDLP事例検討会が初めてという方でも不安がないよう、事例検討会の進め方や事例解説が中心の解説グループも作成した。継続して実施していき、解説グループから報告者が出るとよいと思われる。

金沢東支部では情報交換や、支部内の連絡網としてLINEオープンチャットを使用している。まだ利用していない会員の皆様には是非、利用をお願いしたい。



加賀支部

片山津温泉・丘の上病院 西村 幸盛

2月7日(水) 19時よりZoom形式で開催された第3回事例検討会では28名の参加のもと、4事例が報告された。脳卒中患者に対するIVESとMT治療を実施した症例や「やりたい作業」を焦点化した結果、トイレ動作に繋がった症例、視力障害と注意障害に対して視覚探索課題を用いた症例、さらに腱板断裂術後の過用による疼痛に対するアプローチについてなど多岐にわたる報告があり、指導者からの的確かつ建設的な助言や励ましが行われた。私自身も新しい用語や治療法など知見を広める良い機会となった。今年度の活動は今回をもって終了となるが、来年度もこのような学びの場を有効に活用してもらえることを切に願う。

臨床実習指導者講習会の開催報告

石川県作業療法教育協議会 桂 靖典
(木島病院)

令和6年1月20日(土)、21日(日)に2023年度臨床実習指導者講習会を開催した。令和6年能登半島地震により被災した会員もいた中であつたが、中止することで来年度の臨床実習への影響が大きいと判断し、開催に至った。本講習会には47名の参加があり、参加者の中には県外からの参加が6名、理学療法士の参加も2名いた。2日間に亘る長時間の講習会だったが、講師、ファシリテーター、運営スタッフのおかげで大きなトラブルもなく開催でき、この場を借りて厚くお礼を申し上げたい。

本講習会をこれまで多くの県内の作業療法士が受講しており、全国平均よりも非常に高い受講率を誇っているが、まだ受講していない会員も相当数いる。特に経験年数が長い会員や少人数の職場の会員の受講率が少ない印象である。本研修は臨床経験が4年以

上の作業療法士が受講対象となる。恐らく職場の実習生受け入れ体制も大きく影響していると予想するが、是非、対象となる会員は本講習会を受講し、後進の育成に努めて頂きたい。



令和5年度精神医療部研修会の報告

精神医療部 部長 萬 貴裕
(医王ヶ丘病院)

令和6年1月28日(日)、精神科医の長澤達也氏(金沢医科大学)と公認心理師の水上市喜美子氏(金沢大学)を講師に、標記研修会をオンラインにて開催した。参加者数は28名で、作業療法士だけでなく理学療法士やケアマネージャーの方々にも参加頂いた。

講義1では、ガイドラインに基づいた日常診療における臨床推論や、作業療法士に期待する役割を具体的に教えて頂いた。講義2では、対人コミュニケーションの成り立ち、災害時における支援者の心構えについてワークを交えて学んだ。両講義を通じて、正確

な知識を習得し積極的に活用することや、クライアントへの支援方法だけでなく、自己ケアの重要性を再確認することができた。

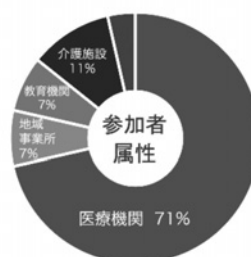
今回学んだ考え方や技術を日常の実践に生かし、より質の高い作業療法を提供できるよう努めていきたい。次年度もこのようなテーマを軸にした研修会を継続的に開催していき、参加者一人ひとりが成長できる機会を計画していきたい。最後に、この研修会の開催にご協力いただいた事務局や運営スタッフの皆様から感謝申し上げます。

講義1「薬からアプローチの仕方が見える-精神科医が大切にしていること-

- ・ガイドラインとは
- ・薬物療法の効果判定
- ・高齢、慢性期統合失調症患者に対する薬物の選択と精神症状
- ・随伴症状や副作用の評価と対応
- ・気にかけて欲しい症状と作業療法士が出来る改善法
- ・どうやって精神科医に処方変更などをアプローチするか

講義2「公認心理師から改めて学ぶ、聴く・受け止める・質問する技術」「心理的応急処置(PFA)と支援者自身のケア」

- ・対人コミュニケーションとは?
- ・グループワーク
- ・災害時心理的応急処置(Psychological First Aid : PFA)



研修参加前の悩みや課題

1. 精神科薬物療法に関する知識
2. 薬物療法の考え方
3. 災害派遣に参加する上での心得と知識
4. 被災して入院された方への接し方

研修で得られたこと

1. ガイドラインと情報の活用
2. 主治医への情報提供の意識
3. 自己認識と感情の管理の重要性
4. 被災者支援の心構え

◆◆◆令和5年度 公益社団法人石川県作業療法士会 第5回理事連絡会 議事録◆◆◆

1. 日時・場所：令和6年1月12日(金) 19時00分～21時 西泉事務所および Zoom使用によるWeb会議
2. 出席：東川、桂、合歡垣、麦井、米田(以上会場)、中森、種本、永井、酒野、村井、坂下、東、菊池、越田、高多、鈴木、堀江(理事17名)、長原、市川、小川(支部長3名)(以上Zoom)、欠席：加藤理事、西村支部長
書記：濱岸(会場)

3. 議事【審議事項】

①令和6年度事業計画と予算について

- 《企画部》通常の風船バレーボール大会は開催困難と考える。企画を修正して執行していく。 **承認**
- 《管理運営教育部》《教育部》各種研修を引き続き行う。 **承認**
- 《認知症対応委員会》次年度の企画は委員会主催の研修会と県こころの病院主催の研修会を行う。 **承認**
- 《能登支部》オンライン活用した検討会を開催する。発表者が少ない。回数を変更し発表者が増えたら回数を増やす。
- 《発達障害支援部》認定OTの人材育成が必要。部員数の検討をする。 **承認**
- 《福祉機器部》事例投稿者が増えない。会員の目が向くような先駆的な福祉機器の啓発的な研修をしてほしい。
- 《老年医療部》身障医療部との組織の見直しが必要かもしれない。現職者研修の回数を検討する。
- 《地域保健福祉部-福祉》研修会の参加数が少ない。生涯にわたり、OTが必要である啓発を続けていく。 **承認**
- 《高度専門医療人材》石川県から補助金をもらっている。県の医療計画を参考に研修企画を作成してほしい。
- 《精神医療部》県の医療計画で早期退院と長期入院に対しての働きかけが上がっている。この内容で研修を企画する。
- 《身障医療部》研修会テーマ講師は未定。県の医療計画を参考に研修テーマを検討する。
- 《MTDLP推進委員会》協会の全国推進会議、指導者参画会議は指導者の資質向上に関するところである。北陸3県合同研修会は富山、福井両県を引っ張って開催していただきたい。企画委員会をしながら進めていく。 **承認**
- 《事業部》キャリア教育支援と高齢者のウイルビーイング支援事業の予算の確認をしてほしい。
- 《災害対策委員会》安否確認のシステムを見直しが必要。JRATが県と協定を結んだ。JRATの活動は県から依頼して動く形になるので、費用や保険は県が全額負担となる。引き続き協力願いたい。
- 《広報部》このまま事業を継続する。部員不足が課題となっているが、新部員の勧誘など行っていく。 **承認**
- 《金沢西支部》事例検討会は新人が発表する場として敷居が高い。相談窓口を作り、フォローする形をとるのはどうか？ **継続審議**
- 《運転と作業療法》高間さんが自動車学校に就職して全国的に注目されている。
- 《地域保健福祉-保健》トピックス的な内容はリーダー研修会で発信してほしい。
- 《東海北陸学会》どんな規模で開催するか検討中。判断時期には皆さんからの意見をお願いしたい。
- ②各部からの審議事項
- 《身障医療部》診療報酬・介護報酬改定は6月になったため5月の総会開催日に同時開催する。 **承認**
- 《広報部》県士会ニュース130号割付案について、震災関連を1ページに、締め切り2/14、発行3月中旬 **承認**
- 《MTDLP》震災の影響により北陸3県MTDLP事例検討会は次年度持ち越ししたい。 **承認**
- 《事務局》被災地の会員の経費免除を検討したらどうか。 **審議継続**
- 《企画部》スポーツフェスの1位は動画提出を必須にしているが、1位の能登地区施設は動画省略でよいか。 **承認**
- 【報告議案】各部、委員会からの報告、東海北陸学会の進捗状況の報告があった。

インフォメーション

令和6年度 会費納入についてのお知らせ

- ・ **継続** 石川県作業療法士会年会費：8,000円
 - ・ **新規** 4月以降に県士会へ新規入会：13,000円 (入会費5,000円+年会費8,000円)
- 【納入期間】令和6年4月1日～令和6年4月末日 (期間厳守でお願いいたします)

【納入先】

- 北國銀行 野田支店 普通 260902
公益社団法人 石川県作業療法士会 会長 東川哲朗
- 郵便振替 00720-7-22369 公益社団法人 石川県作業療法士会
ネットバンキングの場合：ゆうちょ銀行 当座預金 支店079 口座番号0022369

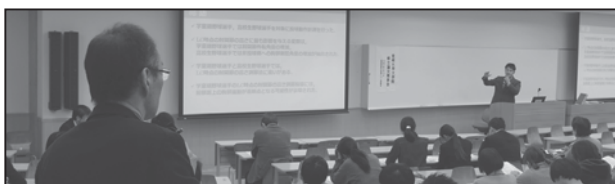
職場変更・自宅住所変更がある場合は届出もお忘れなく！！

県士会ホームページ (<http://www.ishikawa-ot.com>) より
『会員の皆様へ』 (スマホの場合は右上のメニュー) → 『入会・異動・退会手続き方法』へ

お問い合わせ先 (公社) 石川県作業療法士会 事務局
imu-n@ishikawa-ot.com FAX: 076-259-0681

令和6年度
公益社団法人
石川県作業療法士協会
総会 (予定)
～表彰式典・新人歓迎会～

日程：5月18日 (土)
場所：KKRホテル金沢
〒920-0912 石川県金沢市大手町2-32
TEL 076-264-3261
※COVID-19感染の拡大状況によっては変更あり



「超高齢社会」における
現場での悩みを解決したい方や、
学びの追及をしたい方へ。

金城大学 大学院で学んでみませんか？

- ・ 総合リハビリテーション学研究科
- ・ 総合リハビリテーション学専攻 (修士課程)

遠隔オンライン
学習対応

安心設定の
学納金

就業しながら学べる
昼夜開講制



2022年度

「作業療法士」
国家試験合格率 **95.7%** (2022年度卒業生実績)
(全国平均 91.3%)



金城大学

詳しくは、
ホームページを
ご覧ください。



全国に広がる有料老人ホーム

パーキンソン病専門 PDハウス

施設 ビジョン

「我がままに生きる」

「病気だからできない」ではなく「病気ででもできることはある」という視点から、利用者様が様々なものに挑戦できる環境を目指しています。また、現場で働くセラピストの想いや技術が活きる、未来ある場所になるよう日々試行錯誤しています。

働き方改革 目標

2023年に向けた

公休数	残業	有給取得
120日	0時間	100%

PDハウス野芥 笠松 朋枝

PDハウスには、元気で優しく知識が豊富で、尊敬できるスタッフさんがとても多いです。私もまだまだ周りの皆さんに助けをもらうことが多いのですが、これからも私自身が成長し、頼ってもらえるような存在になることが目標です。

■ 関東エリア

■ 北海道エリア	PDハウス相模大野 2021.01
PDハウス野芥 2020.11	東京1号店 2021.夏
札幌2号店 2021.春	神奈川2号店 2021.秋

■ 福岡エリア

PDハウス有田 2020.06	■ 関西エリア
PDハウス今宿 2021.05	PDハウス岸部 2021.06
	大阪2号店 2021.秋

■ 出店計画

■ 関東エリア

■ 北海道エリア

■ 福岡エリア

■ 関西エリア

働き方公開中!

介護サービス
サンワエルズ

0120-905-166

賛助会員名簿 (順不同)

A会員

社会医療法人財団董仙会
学校法人 金城学園

B会員

学校法人 センチュリー・カレッジ
社会福祉法人徳充会 青山彩光苑
特定医療法人社団勝木会
医療法人社団和宏会

C会員

粟津神経サナトリウム
石川県済生会金沢病院
石川県リハビリテーションセンター
医療法人社団浅ノ川浅ノ川総合病院
医療法人社団浅ノ川金沢脳神経外科病院
医療法人社団浅ノ川桜ヶ丘病院
医療法人社団浅ノ川千木病院
医療法人社団映寿会
医療法人社団さくら会森田病院
医療法人社団慈豊会
医療法人社団丹生会
医療法人社団生会えんやま健康クリニック
医療法人社団扇寿会
医療法人社団長久会
医療法人社団千木福久会
社会福祉法人寿福祉会
医療法人積仁会

金沢医科大学病院
独立行政法人地域医療機能推進機構金沢病院
金沢赤十字病院
公立穴水総合病院
公立宇出津総合病院
社会福祉法人篤豊会
社団法人石川勤労者医療協会城北クリニック
城北病院
珠洲市総合病院
芳珠記念病院
医療法人社団 竜山会 金沢古府記念病院
医療法人社団持木会 柳田温泉病院
医療法人社団 光仁会
医療法人社団橘会整形外科米澤病院
宇野酸素株式会社
金沢義肢製作所
株式会社トータルシステム
株式会社トミキライフケア
エア・ウォーター・リンク株式会社 北陸支店
セントラルメディカル株式会社
株式会社 メディベック
株式会社 サンウェルズ

D会員

医療法人社団 あいずみクリニック
有限会社 さわやか金沢
東洋羽毛北信越販売株式会社北陸営業所

Web会員手続きQRコード



QRコードの説明

Web会員手続きがお済みでない会員は、QRコードからWeb会員
登録フォームにアクセスして登録してください。登録いただいた

メールアドレスに研修会案内や県士会からの連絡などをML配信します。



県士会Web QRコード ▶



会員数

会員数 865名(令和6年2月1日現在) 認定作業療法士 40名(令和6年2月1日現在)

専門作業療法士 5名(令和6年2月1日現在)

編集後記

能登半島地震において、被災されたすべての方々に対し心よりお見舞い申し上げます。

また、当該地域にお住いの会員の皆様におかれては、筆舌に尽くし難いご苦勞をされていることとお察しする。編集人も元日より多数傷病者のトリアージを行い、県災害対策本部に登庁。自衛隊・消防・県外DMATの仲間と共に、救援・搬送と間断無く関わってきた。今後、緊急フェーズから復興フェーズへと切り替わるなかで、他県と異なる問題も多く生じている。リハ職としての専門性を発揮する場合は、これからである。同時に長期支援を見据えた際、支援者の日常業務と休息も重要となる。自身のケアにも目を向け、燃え尽きることなく継続的支援を行いたい。

公益社団法人石川県作業療法士会ニュース 年4回発行

編集担当：酒野直樹、永井亜希子、川口朋子、藤田隆司、寺井利夫、萬貴裕、太田哲生、岩田望、網谷郁美、
北野早紀、竹中朋也、仲佐東、上野玲子、川上直子、宮田真由美、竹村健太郎、増田司、南澁太

発行所：公益社団法人 石川県作業療法士会

〒921-8043 石川県金沢市西泉3丁目28-1 東和第3ビル201 Tel 076-259-0678

発行人：東川哲朗 印刷：ヨシダ印刷株式会社